

## 認知症の人及び家族の意見

①認知症の理解の増進と共生の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症になると終わり、暗いイメージがあるがそうではなく、認知症になっても大丈夫と思うようにしてもらいたい。(交)</li> <li>・自分になる可能性を踏まえ、認知症について知ること、認知症になっても輝いて生きることができることを知って欲しい。(シ)</li> <li>・市民、支援者たちに、認知症のことを理解してもらうことが大切。(交)</li> <li>・認知症になっても役割を取りあげず、本人の出来ないところだけを支援する等、対応について理解してもらいたい。本人のやりがいや生きがいを奪わないでほしい。(交)(シ)</li> <li>・認知症“対策”と表現し、「認知症」を悪いものとして捉え、解決しようとしているので、対策ではなく一緒に「考える」ことが必要。(シ)</li> <li>・認知症サポーターが活躍できる場所やイベントの情報提供が必要。(家)</li> <li>・認知症に関するイベント等の効果的な情報提供が必要。(家)</li> <li>・遠慮なく話ができる、何でも話せる、安心できる場所があればいい。(力)</li> <li>・認知症カフェが図書館や市民センターのような公共施設で広がれば、孤独に陥らずに済む。(力)</li> <li>・搜索模擬訓練は良い取り組みだが、なぜ認知症の人が出て行くのかを考えることが抜けている。「見つかった、良かった」で終わらせず、なぜ出て行ったかを知ることが必要。(シ)</li> <li>・今後携帯を使える人が認知症になる。グーグルマップを利用した搜索練習や、出来ないことを補う携帯の活用法が良い。(シ)</li> <li>・「見守る」「支え合う」はすごく大切。しかし、見守るが監視にならないように気をつける。(シ)</li> </ul>
②保健医療・介護サービス提供体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗の床に、コーナー(肉、魚などの)表示があると良い。(シ)</li> <li>・高齢者の多くがまずトイレを確認したいと思っている。入ってすぐの場所に案内表示をして欲しい。(シ)</li> <li>・Wi-Fi を施設に入れて欲しい。(シ)</li> <li>・認知症の人で本が読めない方にオーディオブックを活用して欲しい。(シ)</li> <li>・医療関係者にも、認知症の人や家族の気持ちなど理解してもらいたい。(交)</li> </ul>
③認知症の人や介護者への相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症になっても、出会いの場、交流の場は大切。ふれあいを作ることが必要。(交)</li> <li>・家族交流会へ参加し、希望大使の映像を見て、「認知症になっても出来る事がある」と元気になれた。(シ)</li> <li>・支援者(家族の会等)に出会い、応援してもらえ、元気になれた。(シ)</li> <li>・家族が真正面から受け止めサポートしてくれる姿をみて、自分も「認知症」を受け入れ発信することができ、気持ちが明るく楽しくなった。(シ)</li> </ul>

④認知症の 予防	・認知症の出口の対策があるので、入口(予備群)の対策が大事。発症した方の対策ではなく、その前の方に対する対応を考えていくべき。(カ) ・認知症の「予防」ではなく「備える」ことが大切。「備えている」と不安ではなくなる。(シ)
-------------	--

(カ)カフェ・オレンジ、(交)認知症の方の交流会、(シ)市制 60 周年記念シンポジウム、  
(家)NPO 法人老いを支える北九州家族の会